

# 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

## 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	石垣市立伊野田小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	「伊野田っ子ファーム」から笑顔の輪を広げよう

### 1、活動に至る経緯

本校児童は、極小規模校の集団の中で家族のように生活している。そのため、人見知りな児童が多く、多様な人と交流したり、異集団の中で自分の考えを伝えたりすることが苦手である。

そこで、「伊野田っ子ファーム」の活動を通して、仲間とのつながりを深め、多様な人とふれあい交流できる体験を深めたい。また、地域の人に栽培や加工・販売の方法を学び実践することで、地域の良さを再確認し、地域と主体的に関わり、地域に元気と笑顔を発信できる児童を育みたいという経緯より本活動を行った。

### 2、活動・研究の目的(ねらい)

- (1) 農業生産活動(米・野菜・花)を通して、作物を育てる喜びを味わう。
- (2) 稲作体験を通して、田んぼづくりや米づくりを体験し農家の苦労や努力を体感する。
- (3) 農産物と自然環境・地域の祭りの関わりを知る。
- (4) 協働活動を通して、自分や友達の良さを認め合い高め合う仲間づくりを図る。
- (5) 地域の人に学ぶことで、自分たちを応援する地域の方々の存在や思いを知り、自分たちが地域にできることを考え行動できる児童を育成する。

### 3、活動内容

#### 【4月・5月・6月】

昨年度、畑に植えたサンチュを収穫した。また昨年度、本校用務員や地域の方々との協力のもと、校内に田んぼ(5m×6m)をつくり稲作体験を行ってきた。令和5年3月に田植えをした稲をスズメなどから守るため、万国旗を設置し、対策を行った。今回の助成金で新たに万国旗を購入したので、今年は購入した万国旗を利用していく。



#### 【7月】

暑い中だったが、講師の小川先生をお招きして児童と職員で稲刈りを行った。稲刈り後、脱穀機で稲穂から籾を分離した。分離した籾は、地域の田んぼ農家さんに頼んで籾摺りを行った。今回使用した脱穀機は地域の方からお借りしたものだが、助成金で脱穀機を購入したので、次回から活用していく。



#### 【9月・10月】

9月に入り、畑の整備を行った。はじめは、子どもたちで雑草を取り、その後、保護者がトラクターで土を混ぜ、うねづくりまで行ってくれた。子どもたちが話し合って決めた野菜の種や苗を丁寧に植えた。10月に運動会を行い、地域・一般種目の「縄ない競争」では、7月に脱穀した際に残っていた稲を利用して行った。多くの方が「縄ない競争」に参加し、運動会を盛り上げてくれた。



## 【11月】

子ども達から「冬野菜販売会社」の紹介とプロジェクトの紹介が行われた。販売を通して、値段の設定や販売協力をお願い、宣伝方法や商品の包装など流通の仕組みなども学ぶことができた。今回は、学校内での販売だったが、ネギを完売することができた。地域の方からは、「ネギを購入できたことは嬉しいが、商店などで手軽に購入できればもっと良い」との意見もあったので、子ども達は次の販売に向けて改善策を考えていた。また、感謝集会では、普段お世話になっている地域の方々に感謝状と一緒に、育てたネギをプレゼントした。



## 【12月】

マリーゴールドなどの苗を大きなポットに移植した。また、お正月に向けて、しめ縄づくりを行った。この縄は、7月に稲刈りした稲を使用し、それぞれ家に持ち帰った。子ども達から、2回目の「冬野菜販売会社」の紹介を行った。地域の方に喜んでもらうため、畑の整備も進んで行ってくれた。助成金で購入したホース分岐プラグ、散水タイマー、散水ホースなどを利用して短時間で効率良く散水することができた。



## 【1月】

3学期はじめに毎年恒例のもちつき会を行った。今年は7月に収穫したお米を使って、もちをついた。また、学校で育てたマリーゴールドの苗と収穫したジャガイモを地域の方へ購入してもらうため、今回は売店の方をお願いしてお店の前に置いて販売に協力していただけるよう、子どもたちがお願いに行った。お店の方も子ども達からのお願いに快く引き受けて下さった。販売した花の苗とジャガイモは地域の方のご協力もあり完売することができた。また、田植えに向けて講師の小川先生が来校してくださり、種もみを行った。今回はお米の苗を種から育ててみることにチャレンジすることにした。



## 【2月】

田んぼの土を足で踏みつける「田ぶみ」を行った。最初、子ども達は恐る恐る入って田んぼを踏みつけていたが、徐々に慣れ満遍なく踏んでいた。余分な雑草なども取り除き、きれいな田んぼに生まれ変わった。すると低学年の子ども達が我慢できず、大はしゃぎ！お兄ちゃん、お姉ちゃんはその様子を田んぼの周りで楽しそうに見ていた。また、先月植えた稲の苗が十分成長したので田植えを行った。できる限り等間隔に植えるため基準を決めて苗を植えた。しばらくは稲の生長や、田んぼにやってくる生き物などを子ども達と楽しもうと思う。



## 4、子どもたちへの効果

- (1) 児童が主体的に諸活動に取り組み、積極的に異学年や先生方、地域の方々と関り、自分の考えを伝えたり、相手の意見を取り入れようとする態度が育成された。
- (2) 栽培活動を通して、自然と関りながら作物や植物が成長していくことを学んだり、失敗から次の計画の見直しや修正をしたりする中で、仲間と協働して最後までやり抜く喜びを味わうことで、自己有用感の高揚につなげることができた。
- (3) 農業体験を通して、地域の方と関りをもち、興味を抱き、地域に目を向けられる児童の育成につなげることができた。